

心豊かな言葉

アナウンサー・千葉市女性センター名誉館長 加賀美 幸子

「言葉の世界」は広く深く、その一つの側面を捉えても、いよいよ深くなるばかり、更に先は広がるばかり……。『言葉』という、一つの言葉が包括する世界は、人間のさまざまな行為に寄り添って千変万化、限らない深さと広さ。生きることに添っているのが「言葉」であろうか。

言わずもがな、日常の暮らしも、全て、私たちは「言葉」と共にあり、政治、経済、教育、その他のどの場面を取り上げても、全ては、言葉ぬきには考えられない。

表現という側面から「言葉」を見つめても、音声表現による言葉、文字表現による言葉、手話など身体表現による言葉、その他多くの表現があるが、その言葉の一つひとつは、内容と心に乗せて表すものだから、言葉イコール内容・心であり、「言葉」は「人そのもの」と言えるかもしれない。

子供の頃から、私たちは、「言葉は自らを表現し、人に伝えるものだから、大事にしなければならぬ。」と、学校でも家でもどれほど言われてきたことであろうか。

勿論、内容と心に乗せて伝える道具としての言葉は、なによ

り大事である。しかし、「言葉は考える道具だから大事にしよう」という言い方はされなかったように思う（もしかしたら私の耳に届かなかったのかもしれないのだが）。

考える道具でもある言葉。私たちは、言葉で概念を整理し、構築し、物事をあれやこれや考えている。ということは、言葉が乏しければ、それだけ考える力も乏しく、弱く、薄くなるかもしれない。表現が巧みでなくても、考えの深く広い人もいる。考える道具でもある言葉のことをつい忘れがちであるが、その意味での言葉も、私たちは大事にしたい。

「伝える言葉」「考える道具でもある言葉」はともに豊かでありたい。豊かさとは何か：言葉の数はやはり多いほうが良い。いくら持っていても重くはないのだから。言葉多くといっても、勿論おしゃべりということではなく、蔵の中に言葉が豊かに蓄えてあれば、考えも深まり、物事を伝える時も、臨機応変に、自在に選び、又は削り、表現できることにもなる。怖いものなしである。使いたくなかったら使わなくてもいい、いつか必要な時がくるかもしれない。それが豊かさでもあろうか。又、豊

かさとは、言葉の心を、どこまで感じ捉えることができるか、ということにも関わってくると思う。しかし、言葉の心については表現のしようがない。

私は昨年NHK大河ドラマ「風林火山」のナレーションを一年間担当したが、主人公・武田信玄役で多くの人々を惹きつけた市川亀治郎さんは、「役者はなにより、気が大事。演技や言葉は磨けば上達するものだが、気はそういうものではない。説明しがい心」と。そして、それがあつかないかで、人に伝わるかどうかが決まってくるとおっしゃっていた。私たちアナウンサーの仕事も同じ話にしても、悲しいかな、その心や気が伝わる人と、そこまでいかない人もいる。プロの世界でも、日常生活のどの部分でも、全てを左右するもの。

説明しがたく、捉えられない「気」や「心」だが、「言葉」を探っていくと、何かが開けてくることがある。例えば「辞書」を開いてみる。誰もが願う「幸せ」や「優しさ」――「幸」という言葉を白川静さんの『常用字解』で調べると、「両手にはめる刑罰の道具の象形」とある。幸せとは、無実の罪で捕らえられる人も多かった古代において、命を奪われず、手枷だけの軽い刑で免れて本当によかった！本当によかった！……という心の叫び。それが「幸い」の意味でもあるのか……と思うと、幸せという言葉の心、その捉え方も違ってくるような気がする。

「優し」を『言葉』や『日本国語大辞典』『広辞苑』その他何冊かの辞書で引いてみると、「優」の意味の最初に「恥ずかし」と同根とある。「優しさ」とは、こんなことをしたら恥ずかしいと思う、軟らかな心のことであろうか。改めて言葉の心を知りたい気がする。優秀、優越感、優劣、などと言う言葉は好きで

はないが、「恥ずかしさ」と同じ心であることが確かめられ、幸せであった。

解りきった言葉も辞書を引くと、改めて、言葉の心に触れる思いがする。最近電子辞書が簡便であり使い勝手がよいと、多くの人が利用しているが、言葉の厚みと深さがそのまま形になっっている辞書そのものの豊かさには及ばない。

いわゆる「辞書」は、調べたい言葉だけでなく、その頁と隣の頁にある言葉たちにも触れることが出来る楽しみ。言葉に行きつくまでのもどかしさも期待感ある行為。でも時間が勿体無い、そんな暇はないというのが昨今だが、まわり道、道草や無駄なことの中に、実は大事な鍵、人生のメッセージが豊かに潜んでいることに気づきたい。

言葉だけでなく、道草や一見無駄のようなこと……そこを通過するゆとりがあるかないかで、その後の人生も変わってしまうこと、怖さを、私たちは、せわしい時代の今、思い知らされているような気がするのである。

加賀美 幸子（かがみ さちこ）

アナウンサー・千葉市女性センター名誉館長。一九〇四年東京都生まれ。現在、『NHKアーカイブス』『列島縦断俳句スペシャル・短歌スペシャル』（NHK）などの番組を担当。著書に、『こころを動かす言葉』海電社『読み聞かせる戦争』（光文社）などがある。光村図書中学校国語教科書2（平成十八年度版）に、書き下ろし教材「古典の心に近づく」を執筆。